

兵庫医科大学 研究実施のお知らせ

本学で実施しております以下の研究についてお知らせ致します。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象と致しませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	医学生の臨床解剖実習に対して腹腔鏡を使用した場合の有用性の検討 [管理番号：202411-038]
研究責任者氏名	兵庫医科大学 下部消化管外科 池田 正孝
研究機関長名	兵庫医科大学長 鈴木 敬一郎
研究期間	2025年1月31日 ～ 2029年12月31日
研究の対象	以下に該当する方を研究対象とします。
	兵庫医科大学医学部の学生で第4学年次の臨床解剖実習を受講したもの 受講日：西暦 2023年 4月 1日～ 2024年 12月 31日
研究に用いる 試料・情報の種類	<input type="checkbox"/> 試料等 <input type="checkbox"/> カルテ情報 <input checked="" type="checkbox"/> アンケート <input checked="" type="checkbox"/> その他（試験の成績）
	取得の方法： <input checked="" type="checkbox"/> 実習の過程で取得 <input type="checkbox"/> その他（ ）
研究目的・意義	近年、消化器外科において腹腔鏡やロボットなど鏡視下手術が普及し、拡大視における局所解剖の理解が重要です。しかし学生への解剖学の講義や解剖実習では開腹による臓器全体の解剖を学ぶことはできますが、鏡視下手術に応用できる局所解剖に触れることは少ないです。臨床実習前に行われる臨床解剖実習にて腹腔鏡を使用した解剖学実習を行うことにより、学生の局所解剖に対する理解を深め、またそれにより近年減少傾向である外科への興味を上昇させることを目的としています。
研究の方法	第4学年次の学生に行う臨床解剖実習にて Theil 法献体（ホルマリンに加え食品添加物であるポリエチレングリコールを用いた従来の解剖学構造を維持することができる解剖体固定法）で腹腔鏡を使用して解剖実習を行います。その後、腹腔鏡での解剖を上腹部、下腹部、実際の定期的な大腸癌の術式（S状結腸切除や回盲部切除など）のパートにわけて説明します。講義の後に Theil 法献体で腹腔鏡を用いて、外科医がデモンストレーションし、学生は腹腔鏡の画面を供覧していただきます。

	<p>最後に、ホルマリン献体にて学生自身にて解剖していただきます。また班ごとに腹腔鏡での解剖も Theil 法献体にて解剖してもらいます。</p> <p>後に解剖の定期試験を行います。</p> <p>上記は通常教育を目的とした解剖学実習です。</p> <p>本研究ではさらに、実習開始直前に 10 問の小テスト、実習終了後にアンケートを実施して、解剖実習の満足度や理解度を調査します。</p>
<p>個人情報の 取扱い</p>	<p>個人情報と診療情報に関する記録の一部は外部に漏れたり、本研究の解析以外の目的で使用されないよう厳重に管理されます。個人情報は個人が識別できないような形となっており、氏名など識別指標を作成したうえでその対応表を作成し、それらは施設で厳重に管理されます。</p>
<p>本研究に関する 連絡先</p>	<p>診療科名等：下部消化管外科、炎症性腸疾患外科</p> <p>担当者氏名：木村慶、桑原隆一、今田絢子</p> <p>[電話] (平日 9~17 時) 0798-45-6372</p> <p>(上記時間以外) 0798-45-6111</p>